2025年度

こども学科
講義計画集

― 第2学年 ―

氏名

船橋情報ビジネス専門学校
〒273-0005　船橋市本町7-12-16
電話:047-425-1051

2025年度　（令和7年度）　こども学科 年間計画表

前　期

4月		5月		6月		7月		8月	
1 火	新入生 ピアノプレレッスン	1 木	木4回	1 日		1 火	火11回 検	1 金	2年:音楽特別授業② 学校見学会
2 水	新入生 オリエンテーション	2 金	金4回	2 月	月8回 検	2 水	水12回 検	2 土	
3 木		3 土	オープンキャンパス①(保護者) 憲法記念日	3 火	火7回 検	3 木	木12回	3 日	
4 金	入学式	4 日	みどりの日	4 水	水8回	4 金	金13回	4 月	障害児保育②
5 土		5 月	こどもの日	5 木	木8回	5 土	学校見学会 1年:科目終末試験	5 火	判定会議
6 日		6 火	振替休日	6 金	金9回	6 日		6 水	オープンキャンパス④ (保護者)
7 月	始業式	7 水	水4回 検	7 土		7 月	月13回	7 木	
8 火		8 木	月曜振替4回 検	8 日		8 火	火12回	8 金	
9 水	前期スタート 水1回	9 金	金5回	9 月	月9回	9 水	水13回	9 土	
10 木	木1回	10 土		10 火	火8回	10 木	体育祭	10 日	
11 金	金1回	11 日		11 水	水9回	11 金	金14回	11 月	山の日
12 土	学校見学会	12 月	月5回	12 木	木9回	12 土	AO入試①	12 火	休
13 日		13 火	火4回 2年:プレ実習	13 金	金10回	13 日		13 水	館
14 月	月1回	14 水	水5回	14 土	オープンキャンパス② (保護者)	14 月	月14回	14 木	
15 火	火1回	15 木	木5回	15 日	県民の日	15 火	火13回	15 金	
16 水	水2回	16 金	金6回	16 月	月10回	16 水	水14回	16 土	
17 木	木2回 検	17 土	学校見学会	17 火	火9回	17 木	木14回	17 日	
18 金	金2回 検	18 日		18 水	水10回	18 金	金15回	18 月	
19 土		19 月	月6回	19 木	木10回	19 土	オープンキャンパス③ (保護者)	19 火	学校見学会 成績発表
20 日		20 火	火5回	20 金	金11回	20 日		20 水	赤
21 月	月2回	21 水	水6回	21 土	3C 学校見学会	21 月	海の日	21 木	点
22 火	火2回	22 木	木6回	22 日	保育	22 火	火14回	22 金	処 体験入学②
23 水	水3回	23 金	金7回	23 月	実習 月11回	23 水	水15回	23 土	学校見学会 (保護者)
24 木	木3回	24 土	学校見学会	24 火	・2 火10回	24 木	木15回 検	24 日	
25 金	金3回	25 日		25 水	C 水11回	25 金	金16回 障害児保育① 検	25 月	
26 土		26 月	月7回	26 木	教育 木11回	26 土	学校見学会	26 火	再試発表
27 日		27 火	火6回	27 金	実習 金12回	27 日		27 水	
28 月	月3回	28 水	水7回	28 土	体験入学①	28 月	月15回	28 木	
29 火	昭和の日	29 木	木7回	29 日		29 火	火15回	29 金	AO入試②
30 水	火曜振替3回 2年:プレ実習	30 金	金8回	30 月	月12回	30 水	1・2年:音彩の会 2年:MOS Excel	30 土	学校見学会
		31 土	学校見学会			31 木	2年:音楽特別授業①	31 日	

1・2年始業式:
島村写真館撮影あり

2年障害児保育
スクーリング①25日

2年生障害児保育
スクーリング②4日

後　期

9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 月		1 水	水3回	1 土		1 月	月10回	1 木	元旦	1 日	2年:科目終末試験	1 日	(予備)科目終末試験
2 火		2 木	木4回	2 日		2 火	火10回	2 金		2 月	月16回 検	2 月	
3 水	FJB合同合宿	3 金	金4回	3 月	文化の日	3 水	水11回	3 土		3 火	火15回 検	3 火	
4 木	FJB合同合宿	4 土		4 火	火6回	4 木	木12回	4 日		4 水	1・2年:音彩の会 2年:MOS Word	4 水	卒業判定会議 1・2年:登校日
5 金		5 日		5 水	水7回	5 金	金13回	5 月		5 木		5 木	卒業生登校日 3年生を送る会
6 土	学校見学会 (予備)科目終末試験	6 月	月4回	6 木	木9回	6 土	学校見学会	6 火		6 金	判定会議	6 金	卒業式
7 日		7 火	火3回	7 金	金9回	7 日		7 水		7 土	学校見学会 (保護者)	7 土	学校見学会
8 月		8 水	水4回	8 土	学校見学会	8 月	月11回	8 木	木14回	8 日		8 日	
9 火		9 木	木5回	9 日		9 火	火11回	9 金	金14回	9 月	卒業研究発表会①	9 月	
10 水	後期スタート 水1回	10 金	金5回	10 月	2C 月7回	10 水	水12回 検	10 土	学校見学会	10 火	卒業研究発表会②	10 火	
11 木	木1回	11 土	C第一期入試	11 火	保育 火7回 検	11 木	木13回 検	11 日		11 水	建国記念の日	11 水	
12 金	金1回	12 日		12 水	実習 水8回 検	12 金		12 月	成人の日	12 木		12 木	
13 土	オープンキャンパス⑤ (保護者)	13 月	スポーツの日	13 木	木10回	13 土	オープンキャンパス⑥ (保護者)	13 火	火12回 検	13 金		13 金	終業式 検
14 日	2C	14 火	火4回	14 金	金10回	14 日		14 水	水13回 検	14 土		14 土	オープンキャンパス⑦ (保護者)
15 月	施設 敬老の日	15 水	水5回	15 土		15 月		15 木	月曜振替12回	15 日		15 日	
16 火	実習 火1回	16 木	木6回	16 日		16 火		16 金	金15回	16 月		16 月	
17 水	A 月曜振替1回	17 金	金6回	17 月	月8回	17 水	1年:音楽特別授業①	17 土		17 火		17 火	
18 木	木2回 検	18 土	学校見学会	18 火	火8回	18 木	1年:音楽特別授業②	18 日		18 水	卒業生成績発表	18 水	
19 金	金2回 検	19 日		19 水	水9回	19 金	1年:音楽特別授業③	19 月	月13回	19 木	在校生成績発表	19 木	
20 土	AO入試③ 学校見学会	20 月	月5回	20 木	木11回	20 土	1年:音楽特別授業④	20 火	火13回	20 金	赤	20 金	春分の日
21 日		21 火	火5回 検	21 金	金11回	21 日		21 水	水14回	21 土	点	21 土	
22 月	月2回	22 水	水6回 検	22 土	学校見学会	22 月		22 木	木15回	22 日	処 理	22 日	
23 火	秋分の日	23 木	木7回	23 日	勤労感謝の日	23 火		23 金	金16回	23 月	天皇誕生日	23 月	
24 水	水2回	24 金	金7回	24 月	振替休日	24 水		24 土	学校見学会 (保護者)	24 火		24 火	
25 木	木3回	25 土	若幸祭前日準備	25 火	火9回	25 木		25 日		25 水		25 水	C科限定 オープンキャンパス
26 金	金3回	26 日	若幸祭当日	26 水	水10回	26 金		26 月	月14回	26 木	FJB球技大会 (希望者のみ)	26 木	プレスクール
27 土	学校見学会	27 月	若幸祭振替休日	27 木	月曜振替9回	27 土		27 火	火14回	27 金	再試発表	27 金	
28 日		28 火	若幸祭振替休日	28 金	2C 金12回	28 日		28 水	水15回	28 土	学校見学会	28 土	保護者説明会
29 月	月3回	29 水	月曜振替6回	29 土	施設	29 月	休	29 木	木16回			29 日	
30 火	火2回	30 木	木8回	30 日	実習 B	30 火	館	30 金	月曜振替15回			30 月	
		31 金	金8回			31 水		31 土				31 火	

上～中旬に
研修合宿を予定

※台風など臨時休校が
多い時は12月3週で
対応

※年間講義回数
月　31回
火　30回
水　31回
木　31回

2学年

本校の教育方針 …… 1
評価について／出欠席ルール …… 3
FJBネットID登録とメールアドレス …… 4
実習室・インターネット使用上のルール・マナー …… 4
個人情報保護に関する基本方針 …… 5
教育目標と検定スケジュール …… 6

音楽表現技術（音楽演習Ⅰ）・Ⅱ　中川　菜穂・三田　麻矢佳・谷田　扶実子　・桑代　笑美　・森　真理 …… 7
幼児と造形表現　小倉　正巳 …… 9
子ども家庭福祉　吉濱優子 …… 10
教育相談　杉山　剛 …… 11
保育原理　三田　麻矢佳・津田　聡子 …… 12
子ども家庭支援論　吉濱優子 …… 13
子どもの食と栄養　上原　尚子 …… 14
子どもの保健　渡邉　寿代 …… 15
言語表現　三田　麻矢佳 …… 16
幼児への特別な支援　津田　聡子 …… 17
乳児保育演習　津田　聡子 …… 18
保育実習事前事後指導　津田　聡子 …… 19
保育・教職実践演習Ⅰ・Ⅱ　三田　麻矢佳・津田　聡子 …… 20
乳幼児心理学　青木　耕大 …… 22
社会的養護Ⅱ　生越　雅志 …… 23
乳児保育　津田　聡子 …… 24
現場学習　中川　菜穂・三田　麻矢佳・津田　聡子 …… 25
保育のマナーⅡ　青木　耕大 …… 26
Office演習Ⅰ・Ⅱ　上原 尚子、青木 耕大 …… 27
検定対策Ⅰ・Ⅱ　上原 尚子、青木 耕大 …… 29
社会人基礎力Ⅲ　中川　菜穂 …… 31
社会人基礎力Ⅳ　中川　菜穂 …… 32
33

本校の教育方針

船橋情報ビジネス専門学校
校　長　　鳥　居　高　之

教育理念「若者をハッピーに」

これが本校の教育理念です。しかし幸せの形は人によって違いますし、卒業式で「はいどうぞ」と手渡しできるものではありません。在学中だけハッピーならよい訳でもありません。その後こそ重要です。従って私たち教職員の使命とは、学生のみなさんが職業人・社会人として豊かな人生を送るために、その土台作りのお手伝いをするという事になります。あくまでも主役は学生本人です。また社会に出てハッピーになる最低条件としては、大人として自立していなければなりません。その自立に欠かせないのが自律です。自律とは自分と闘うということです。ただ欲望や本能のままに行動するなら動物と同じです。すなわち、「自律 → 自立 → ハッピー」という順番です。私達もみなさんのお手伝いに全力を尽くしますが、自立した大人になる独力を忘れないでください。

勉強は教わるものではない

初年度のみ先生方は手取り足取り親切に教えてくれます。高校までに自分なりの勉強方法が身に付いていない人もいるからです。しかし２年目からは最後まで教えません。「まずは自分で考えてみなさい」と指導します。なぜでしょうか。将来みなさんが就職する会社に、そんな面倒見のよい上司や先輩がいるでしょうか。みな仕事を抱えています。社会に出れば自分で勉強するのが当たり前です。質問・相談もできますが、自分で調べて考えるのが大原則です。その姿勢を在学中に身に付けてください。２年生になって先生の態度が変わるのはそのためです。急に厳しくなったと勘違いする学生がいますが、みなさんの真の成長を望んでいるのだということに気付いて欲しいです。

またスピード制限もしていません。もし授業の内容を既に理解していると感じる人は申し出てください。指導教員がそう判断すれば別メニューを設定します。クラス全体に歩調を合わせる必要はありません。どんどん前に進んでください！

人間教育の重視

人と接するのが苦手だからコンピュータの仕事に就きたいという学生がいます。大きな勘違いです。コンピュータの向こうには生身の人間がいます。どんなビジネスでも主役は人です。技術や資格ではなく人が仕事をするのです。そして人は一人では生きて行けない生き物です。仕事にせよ日常生活にせよ、常に他者との係わりの中で生きています。本校は単なる就職予備校ではないのです。人間教育を技術教育以上に重視しています。特に次の２つを心がけて欲しいです。

元気に明るく挨拶（あいさつ）

明るい人はみんなに好かれます。明るさの第一歩は、自分から元気に挨拶することです。そのような新入社員は職場でも愛されます。学校の先生方や来校されるお客様に練習台になっていただき、どんどん自分から挨拶しましょう。

３つの守り

本校がとても大切にしている３つの守りとは、「時間を守る、約束を守る、ルールを守る」です。単純ですが、当たり前のことを当たり前にやるのは実は大変なことです。自律できない人は自分と闘えません。つまり自立もできません。

「ルールを守る」に関しては考えて欲しいことがあります。学校生活だけでなく今後の生き方にも係わることです。ルールや法律を守るのは、叱られない罰せられないためでしょうか。世の中を見渡すと、法に触れなければいい、見つからなければいい、と考える者もいます。真の大人になり損ねた、自己中心のニセ大人です。みなさんには、「そんなことをしたら人として、大人として恥ずかしい」と自分を律して行動できる、良識ある職業人・社会人になって欲しいと願っています。以下校内のルールやマナーについて、少し補足しておきます。

通学

（１）バイク・自動車通学全面禁止。

（２）自転車は学生課に登録し所定の駐輪場所を利用。

エレベーター

（１）学生はドアの注意書きに従うこと。下りは全面禁止。

（２）授業開始前および終了後の５分間は使用禁止。（教員優先）

（３）３号館は全面使用禁止。

禁煙

教職員、学生、成年、未成年者にかかわらず校内及び天沼公園・学校周辺は全面禁煙。

※路上はもちろん、駐車場やマンション共用部などの私有地での喫煙は地域の方に大変な迷惑をかけることになります。

絶対にやめてください。（懲戒処分の対象となります）

※船橋駅前から本校までの路上喫煙は条例により禁止され過料(2,000円)の対象です

交通ルール

３号館前の大通りは横断絶対禁止。過去に死亡事故あり。横断歩道を使うこと。

重大なルール違反やマナー違反をした場合は、校長面接の上、停学や退学処分になることもありますので、学生の本分を守り勉学や学校生活に励んでください。なお本校では、学生が直接メールを校長宛に出すことができます。何か要望や相談があれば、いつでもメールしてください。　takatorii@mitsuhashi.ac.jp

以上

評価について

（１）評価とは成績証明書にＳ～Ｄで表現され記載される、その科目の最終的な成績のことを指す。
（２）評価は、合計点を用いて算出する。合計点とは、定期試験の素点に授業態度や出席状況、課題提出等の平常点を合計して算出したものである。

評価は以下の基準を用いる。（点または%）

Ｓ　　９０以上
Ａ　　８０～８９
Ｂ　　５０～７９
Ｃ　　４０～４９
Ｄ　　３９以下

（３）評価Ｄの者は、単位未修得者として処理される。
（４）評価Ｄの者には所定の手続きの後、再試験を実施する。ただし、再試験は特別の場合を除き、レポートに代替する。再試験に合格した場合その科目の評価はＣとする。（特別な努力が認められたものは、Ｂ評価になることもある。）

GPA(Grade Point Average)

GPAとは、学生の成績の平均値を表したもので学期ごとにGPAを算出する。算出方法は以下の通り
科目の評価（S～Dの5段階）に応じて、4.0～0.0の得点(GP)を設定し、科目ごとの得点(GP)
に科目の単位数をかけた値を全履修科目分合算し、その値を履修科目の総単位数で割り、
少数点第二位を四捨五入したものをGPAとする。
なお、GPAを算出するタイミングは各学期の成績発表時点とする。その時点で評価がDの
科目のGPは、後日再試験に合格していても0.0となる。
GPA＝【GP　×　履修科目の単位数】の合計　/　履修科目の総単位数

出欠席ルール

（１）遅刻３回で欠課１回、欠課６回（１年生はSHR分の遅刻１回を含む）で１日の欠席とみなし、次の条件で換算する
・SHRの遅刻及び欠席で「遅刻１」※SHRは１年生のみ
・授業開始15分までの入室で「遅刻１」
・授業開始15～45分までの入室で「欠課１」
・授業開始45～60分までの入室で「欠課１＋遅刻１」
※90分授業の前半45分の欠課１、後半15分までの遅刻１という考え方でカウントする
・授業開始60分以降の入室で「欠課２」
（２）年間５５日の欠席で進級停止、退学勧告。
（３）交通機関の乱れによる遅刻の場合は「遅延証明をもらう」。ただしバスは適用外。

レベル	欠席日数	学校側からのアクション	備考
1	無断欠席	担任が自宅へ電話する	
2	累積１０日欠席	自宅へ警告書を郵送する	警告書の郵送は累積１０日になった時点で行う。
3	累積２５日欠席	校長面接を行う	警告書の郵送は累積２５日になった時点で行う。
4	累積４０日欠席	校長面接において「退学警告」を行う	保護者同伴で行う。
5	累積５０日欠席	校長面接において「最終警告」を行う	同上
6	累積５５日欠席	①自宅へ退学勧告通知書を郵送する ②掲示板に名前を張り出す	退学を勧告する。

※「退学勧告」とは・・・１ヶ月以内に退学届けを提出すれば「自主退学」扱いとなります。以後は「強制退学処分」とします。

卒業認定

以下の条件に基づき学校長と教職員による卒業判定会議を経て学校長に認められた者について卒業を認定する
（１）履修した全ての科目において単位修得していること
（２）原則として各年度において年間55日以上の欠席がないこと

FJBネットID登録とメールアドレス

１．ユーザID登録について

本校では、学生１人ひとりにユーザIDを発行しております。このIDでログインすると、学校内のネットワーク環境が利用できます。課題の保存、教材の受け渡し、メールでのコミュニケーションなどに活用して下さい。

２．メールアドレスについて

（１）科によってメールアドレスが設定されています。
詳細は担任から説明があります。

（２）「ＦＪＢインターネット＆イントラネット」画面の「先生へのメール」をクリックして電子メールを活用して下さい。

（３）Ｗｅｂメールでの各個人に与えられている容量は５０ＭＢまでです。整理せずに企業からの大切なメールを受理できないケースがありました。不必要なメールはこまめに消去してください。

３．緊急連絡について

クラスの諸連絡、台風や大雪等の休校等の連絡はグループコミュニケーションツールを使用します。（スマートフォンでも使用可能）各自、常に最新の投稿を確認するようにしてください。投稿を確認していない場合、自己責任です。またツールを使用する環境がない場合は担任に申し出てください。

実習室・インターネット使用上のルール・マナー

１．実習室の放課後開放について

放課後、午後６時まで実習室を開放します。開放時間中に清掃（清掃時間を入り口に掲示）が入ります。その際は一度退出をお願いします。気持ちよく使えるよう、ご協力ください。

２．実習室に、飲食物は持ち込んではいけません

パソコンは精密な電子機械です。水、粘着質の糖分、細かなゴミ、小さな金属物などを嫌います。実習室では、飲食行為も持ち込みも、厳禁です。

３．本校のパソコンに、ゲーム（その他ソフト）をインストールしてはいけません

雑誌の付録のＣＤ－ＲＯＭを持ち込んだり、インターネットでダウンロードしたりして、ゲームなどのソフトを本校のパソコンにインストールしてはいけません。

４．ＵＳＢなどの記憶媒体は必ずウイルスチェックをするようにして下さい

記憶媒体を本校で使用する場合は、監督の先生に申し出てウイルスチェックをしてもらって下さい。その後、許可します。

５．実習ファイルを保存するための領域をＩドライブに用意してあります

必要なファイルのみ保存し、常に整理を心がけてください。ゲームファイル、過度な容量のファイルの保存を禁止します。（卒業研究等、必要な場合を除く）

６．インターネットを利用して、画像、音楽などを不正使用してはいけません

画像・音楽データなどはすべて、著作権があります。さらに、人物の写真には肖像権、アイドルの写真にはパブリシティ権があります。個人的な利用の範囲を超えて、使用してはいけません。ＨＰやブログに貼り付けることはこれらの権利の侵害で、犯罪行為です。

７．インターネットに、非常識な書き込みをしてはいけません

インターネットの世界は、限られた若者のギャグやシャレの場ではありません。善意ある人達の、世界的に開かれた場です。匿名性を利用した破廉恥な書き込みは、卑怯者の行為です。一見匿名ですが、アクセス記録は残りますから、必ず追跡されます。

以上の約束が守れない場合は、指導の対象となります。
また、悪質な場合は、停学・退学を含めた処置を検討します。

学校法人三橋学園　船橋情報ビジネス専門学校
個人情報保護に関する基本方針（プライバシーポリシー）

船橋情報ビジネス専門学校

船橋情報ビジネス専門学校は、教育機関としての社会的責任を果たすために、以下の個人情報保護方針(プライバシーポリシー)を定め、教職員およびその他の関係者に周知徹底し、これを実行します。

１．個人情報の取り扱いについては、教育上または業務上必要な範囲内において利用目的をできるだけ特定した上で、権限を与えられた者のみに許可します。

２．個人情報に対する不正アクセス、紛失、破壊、改ざんおよび漏えい等を防止するために、適切な安全対策を講じます。

３．取得した個人情報は、以下の目的に利用します。
（１）本校の授業、検定試験、行事等の通知・連絡・管理を行うため
（２）就職指導、企業紹介、就職活動支援を行うため
（３）入学相談および募集活動を行うため
（４）入学選考試験業務を行うため
（５）各種証明書等の発行業務を行うため
（６）上記のほか、教育上必要と判断される業務や活動を行うため

４．本校は以下のような場合において、必要とされる範囲内で個人情報を関係者または第三者に提供もしくは公開することがあります。
（１）在学生の保護者に対し、本人の学業成績、出欠席状況、資格取得状況等の提供
（２）在学生もしくは卒業生の出身校に対し、本人の出欠席状況、資格取得状況、就職状況等の提供
（３）学内での定期試験合格者、資格取得者、就職内定者情報等の公開
（４）職業紹介で応募を希望する求人先に対し、応募情報の提供
（５）職業紹介で求職者に開示の許諾を得た業務提携先に対し、応募情報の提供
（６）就職指導室における、在学生もしくは卒業生の就職先、就職活動記録等の公開
（７）本校への入学希望者に対する、在学生もしくは卒業生の就職または就職内定先情報および、学校案内や本校ホームページに記載されている情報等の提供
（８）上記のほか、本校の教育上もしくは業務上必要と判断される場合

５．上記以外の利用目的で個人情報を収集する場合は、別途本人および保護者に通知します。

６．以上のように、本校による関係者および第三者への個人情報の提供は、教育上もしくは業務上必要であると判断した上で行っておりますが、希望しない場合は所定の手続による請求をすることで停止できます。

個人情報の開示、訂正、利用停止の請求および取り扱いに対する問い合わせは下記までお願いします。

校長　鳥居　高之
０４７－４２５－１０５１
takatorii@mitsuhashi.ac.jp

令和7年度　教育目標と検定スケジュール

こども学科

教育目標	・社会で愛される人材の育成 ・人として、社会人としてのモラルを身につけ保育者としての感性を育てる。 ・文化や専門的な知識技術を修得する中で、自ら主体的に課題を見つけ学ぶ姿勢を育てる。 ・仲間と考え学ぶ課程から、他者と共に学びあいと育ちあいの心を育てる。
目標資格	・幼稚園教諭二種　・ＭＯＳ　Ｅｘｃｅｌ ・保育士　・ＭＯＳ　Ｗｏｒｄ ・社会福祉主事（任用）　・医療事務技能認定試験
１年次進級条件 （修得単位、出席日数等以外）	・各実習の要件をみたすこと
２年次進級条件 （修得単位、出席日数等以外）	・各実習の要件をみたすこと
卒業条件 （修得単位、出席日数等以外）	・幼稚園教諭二種 ・保育士

＜方針＞

①園児、保護者、同僚に愛され、信頼され、尊敬される保育者の養成
②経験に基づいた実践的、体験的な保育活動を取り入れる
③保育現場に赴き、先輩保育者の手法を学ぶ
④保育現場で必要とされるパソコンスキルの習得
⑤“まるい人間がまるい人間を育てる”笑顔の溢れる教場

１年次：人間関係に必要な基礎をつくる。
保育基礎知識の学習、及び実践的な演習を行う。資格では秘書検定２級の取得をめざす。後期の現場学習では実際に保育現場に入り子どもと保育者に直接関わることで実践を学ぶ。2年次からの諸実習において、よき実習生として振る舞えるよう鍛える。

２年次：他者との関係の中で自己を発揮する。
保育応用知識の学習、及び実践的な演習を行う。資格では前期Excel、後期WordのMOS取得をめざす。義務付けられている諸実習（教育・保育・施設）において、施設の役割を知り、基礎的な指導計画を立てられる能力を養う。

３年次：協調し合い自ら考え行動する。
3年間の集大成として、卒業研究に取り組む。卒業論文、ピアノ、クラスでの劇を卒業研究発表会にて発表をおこなう。資格では医療事務技能認定試験の取得を目指す。義務付けられている諸実習（教育・保育・施設）において、指導計画を立て、実践できる能力を養う。
実践的な演習は教授だけではなく、学生自らが教案を立て検証させる。

・必要な単位の未修得、資質を身に付けていない場合、実習を許可しない。
・実習後の評価が免許基準を満たさない場合は再実習もしくは実習中止となる。

		１学年												２学年												３学年											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月
1	幼稚園教諭二種 社会福祉主事（任用）											近大面接				教育実習											教育実習											☆
2	保育士																				保育実習	施設実習						保育又は施設実習										☆
3	MOS　Excel													→	→	→	Excel																					
4	MOS　Word																		→	→	→	→	→	Word														
5	医療事務関係の資格（未定）																														→	→	→	→	☆			

こども学科	2年

【前期】

科　目	音楽表現技術（音楽演習Ⅰ）	分　類	専門科目、必修科目
担　当	中川　菜穂・三田　麻矢佳・谷田　扶実子　・桑代　笑美　・森　真理		
テキスト（出版社）	バイエル　音楽ピアノ教本　ポケットいっぱいのうた		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

ピアノ読譜と演奏の上達と共に子どもの歌の弾き歌いに重点を置く

2. 授業の目標（検定取得など）

バイエル82番　季節の歌弾き歌い　マーチ

3. 注意点・要望

ピアノは毎日欠かさず練習する事

4. 関連科目

幼稚園免許関連科目

週	テーマ	内　容
1	ピアノ演奏法　春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
2	ピアノ演奏法　春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
3	ピアノ演奏法　春の歌弾き歌い	４月課題曲のマンスリーチェック
4	ピアノ演奏法　春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
5	ピアノ演奏法　春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
6	ピアノ演奏法　春の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
7	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	5月課題曲のマンスリーチェック
8	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
9	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	6月課題曲のマンスリーチェック
10	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
11	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
12	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
13	ピアノ演奏法　夏の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
14	音彩の会組み立て	コンサートに向けて演奏を仕上げる
15	音彩の会	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう
16		

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	音楽演習Ⅱ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	中川　菜穂・三田　麻矢佳・谷田　扶実子　・桑代　笑美　・森　真理		
テキスト（出版社）	バイエル　音楽ピアノ教本　ポケットいっぱいのうた		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	20%	0%	40%	20%	0%	20%	100%

単位数	4

1. 授業の概要

ピアノ読譜と演奏の上達と共に子どもの歌の弾き歌いに重点を置く

2. 授業の目標（検定取得など）

バイエル100番　季節の歌弾き歌い　合唱の組み立て　発表

3. 注意点・要望

ピアノは毎日欠かさず練習する事　気持ちを込めて合唱する事

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
2	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
3	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	9月課題曲のマンスリーチェック
4	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
5	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
6	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
7	ピアノ演奏法　秋の歌弾き歌い	10月課題曲のマンスリーチェック
8	ピアノ演奏法　冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
9	ピアノ演奏法　冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
10	ピアノ演奏法　冬の歌弾き歌い	11月課題曲のマンスリーチェック
11	ピアノ演奏法　冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
12	ピアノ演奏法　冬の歌弾き歌い	12月課題曲のマンスリーチェック
13	ピアノ演奏法　冬の歌弾き歌い	教育・保育現場で歌われている歌を学び、弾き歌いの実践
14	様々な行事のデザイン	音楽を導入する行事の計画
15	音彩の会	コンサートホールで演奏し音楽のもたらす美しい音色の空間をみんなで共感しあう
16		

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	幼児と造形表現	分　類	専門科目、必修科目
担　当	小倉　正巳		
テキスト（出版社）			
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

児童期までに経験させたい道具の使い方を知り、作品作りの楽しさを自らが体得するために個・共同で作品を作っていく。また作品を作りながら自由な表現の楽しさを感じられるようにしていく。

2. 授業の目標（検定取得など）

保育現場を想像しながら、発達をふまえた上で作品作りを進め、年齢に合った作品作りを設定できるように学習を進めていく

3. 注意点・要望

造形表現で学んだ手法や子どもたちへ伝える時の基本的な考え方を中心において、作品作りに向かいましょう。

4. 関連科目

造形表現（指導法）

週	テーマ	内　容
1	だんだん大きくなる絵本を作ろう	折りたたんだ紙を広げるたびに、ストーリーになっていく絵本
2	ちぎり絵で動物の世界を作ろう	手でちぎったカラーペーパーを貼って動物のいる世界を表現する
3	絵のつづきを考える絵本	折られた紙の隠れている部分を考えて絵を描く
4	折り紙で情景を作ろう	折り紙を貼って一つの情景を作る
5	紙皿で動物のお面を作ろう	紙皿を台紙に、カラーペーパーや毛糸などを使ったお面を作る
6	窓をひらく絵本を作ろう	お話しを考えて、絵の数カ所が窓になっていて開くと何かが隠れている絵を描く
7	絵の具を塗った紙を切って絵を作る	絵の具を自由に塗った紙を切り、貼って絵を完成させる
8	クレヨンを使って自画像を描く	クレヨンを使って鏡を見ながら自画像を描く
9	パタパタ変わる絵本を作ろう	たたんである紙を開くたびにお話しが進む絵本を作る
10	チームを作って紙芝居を作ろう①	チームを作り、どんなお話しにするか相談する
11	チームを作って紙芝居を作ろう②	お話しが決まったら、役割を決めて制作する
12	チームを作って紙芝居を作ろう③	制作
13	チームを作って紙芝居を作ろう④	制作
14	チームを作って紙芝居を作ろう⑤	出来上がった紙芝居を先生方の前で発表する
15		
16		

備　考	デザイン事務所においての制作、フリーランスイラストレーターとしての活動経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【前期】

科　目	子ども家庭福祉	分　類	専門科目、必修科目
担　当	吉濱優子		
テキスト（出版社）	子ども家庭福祉　子どもと家庭を支援する（ミネルヴァ書房）		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷のについて学ぶ。

2. 授業の目標（検定取得など）

子どもの人権擁護に対する歴史的変遷、児童の権利に対する条約、現代社会における課題から、保育者としての子ども家庭福祉に求められる姿を探究する。子ども家庭福祉の制度と実施体系を基に、現状と課題について考える。

3. 注意点・要望

様々な子どもへの対応、特に貧困家庭や学国籍の子どもとその家庭への対応をどのように行うか考察できる力をつけ、子ども家庭福祉の動向を保育者の視点で展望できるようになってほしい。

4. 関連科目

幼稚園免許関連科目

週	テーマ	内　容
1	現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷	オリエンテーション　現代社会の子ども家庭福祉の理念と概念について学ぶ。
2	子ども家庭福祉の歴史と子どもの人権擁護	子どもの人権擁護の歴史的変遷と現代社会における課題 子どもの人権について学ぶ。
3	健全に育つ子どもの姿	子どもたちの健全な育ちを知る（DVD使用）
4	子ども家庭福祉の機関と専門職	実施機関とそれを担う人たちについて学ぶ。
5	児童福祉施設について	児童福祉の種類について学ぶ
6	子どもの家庭福祉施設への理解（1）	グループワーク　児童福祉施設について内容を調査する。
7	子どもの家庭福祉施設への理解（2）	グループワーク　児童福祉施設について内容を発表する
8	子どもの家庭福祉施設への理解（3）	グループワーク　児童福祉施設について内容を発表する
9	多用なニーズへの対応（1）	障害を持つ子どもへの支援について学ぶ。
10	多用なニーズへの対応（2）	子ども虐待・DVとその防止
11	多用なニーズへの対応（3）	貧困家庭への支援について学ぶ。
12	多用なニーズへの対応（4）	外国籍の子どもとその過程への支援
13	多用なニーズへの対応（5）	少年非行等への対応
14	子どもの保育施設について	保育所・認定こども園新制度による保育サービスについて学ぶ
15	子ども家庭福祉の動向と展望	小テストを行い、子ども家庭福祉の現在の動向を確認し、保育っ社の関わり方を確認する。
16	効果測定	効果測定

備　考	教育心理学を学び特別支援教育に長く携わったゲストスピーカーとともに講義を進めます。

こども学科	2年

【後期】

科　目	教育相談	分　類	専門科目、必修科目
担　当	杉山　剛		
テキスト（出版社）	近大テキスト		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

幼児教育における教育相談の意義を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。

2. 授業の目標（検定取得など）

カウンセリングマインドの醸成

3. 注意点・要望

子どもの問題（虐待・不登校・いじめ等）や子育て支援をめぐるニュースなどにも日ごろから目を通し、「自分はどのように対処するか」常に考えてほしい

4. 関連科目

保育相談支援、相談援助、心理学関係科目

週	テーマ	内　容
1	観察法について	幼児の心理理解のため、どのような点に注目して観察・記録を行う必要があるか
2	個別理解と集団理解	幼児を理解する視点について意識すべきポイント
3	養育困難のリスク要因	保護者、子ども、養育環境それぞれの立場から考える
4	不適応行動	不適応行動の種類とクラスや家庭環境を視点としてどのように理解すべきか
5	受容・共感的理解・傾聴	子どもや保護者の支援にどのように活用できるか
6	気になる子ども	発達障害の疑いのある幼児及びその保護者を支援する場合の進め方
7	連携外部機関	教育相談を展開する中で連携する外部機関と、その時に配慮すべき事項
8	保護者の精神疾患	精神疾患の種類と、その保護者について教師が留意すべき事項
9	園の体制	園の教育相談体制を整備するためにどのような工夫が有効か
10	カウンセリングスキル「質問」	閉じた質問と開かれた質問の長所と短所を捉える
11	保護者の育児不安要因	育児不安の要因をできるだけあげ、その支援に対して留意すべき事項
12	虐待	教育相談の視点から、保育者がすべき支援を考える
13	カウンセリングスキル「応答」	子どもや保護者の支援にどのように活用できるか
14	登園しぶり	具体的な行動、背景となる心理的要因
15	まとめ	科目終末試験対策
16	まとめ	科目終末試験対策

備　考	期末試験は近大における科目終末試験として実施する

こども学科	2年

【前期】

科　目	保育原理	分　類	専門科目、必修科目
担　当	三田　麻矢佳・津田　聡子		
テキスト（出版社）	必要に応じて資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

保育の意義や保育者の専門性を理解する。様々な実技や実践を通して、保育に対する関心を深め自分なりの保育観を持てるようにする。

2. 授業の目標（検定取得など）

保育の基本を理解し、保育目標や内容・方法を考察できる。

3. 注意点・要望

授業課題を計画的に取り組んでいくこと。

4. 関連科目

幼稚園免許関連科目

週	テーマ	内　容
1	保育の目的	幼稚園・保育所の保育目的と規定
2	保育の基本	保育者に求められる専門性
3	保育の内容	年齢に合った保育の内容　くまのパペット作成
4	実践の振り返り	プレ実習の振り返り
5	実践の振り返り	プレ実習の振り返り
6	子どもの姿から深める	プレ実習での子どもの姿をもとに理解を深めていく
7	保育の内容	年齢に合った保育の内容　くまのパペット作成
8	保育の実践に向けて	実習で求められる力について、実践を通して学ぶ　清潔の必要性と習慣について
9	保育の実践に向けて	実習で求められる力について、実践を通して学ぶ　清潔の必要性と習慣について
10	保育の実践	自身の立てた指導計画をもとに幼稚園実習にて保育を行う
11	保育の実践	自身の立てた指導計画をもとに幼稚園実習にて保育を行う
12	保育の評価	自身の立てた指導計画をもとに実習の振り返りを行う
13	保育者の専門性	子どもと向き合う保育者の専門性　次の実習へ向けて自身の課題を確認する エプロンシアター作成
14	保育者の専門性	子どもと向き合う保育者の専門性　次の実習へ向けて自身の課題を確認する エプロンシアター作成
15	保育者の専門性	子どもと向き合う保育者の専門性　次の実習へ向けて自身の課題を確認する エプロンシアター作成
16		

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	子ども家庭支援論	分　類	専門科目、必修科目
担　当	吉濱優子		
テキスト（出版社）	児童家庭福祉子どもと家庭を支援する（ミネルヴァ書房）		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し、保育者としての実践力を身につける。

2. 授業の目標（検定取得など）

保育者として専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について学び、保護者や地域への支援、保育士に求められる基本的態度を培う。子育て家庭に対する支援の体制を把握し、演習を通して保育者としての資質を高める。

3. 注意点・要望

子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、現状、課題について保育者がどうかかわるか考えてほしい。

4. 関連科目

社会福祉関係科目全般

週	テーマ	内　容
1	子ども家庭支援の意義と役割（1）	子ども家庭支援の意義と必要性 について学ぶ。
2	子ども家庭支援の意義と役割（2）	子ども家庭支援の目的と機能について学ぶ。
3	保育士による子ども家庭支援の意義と基本（1）	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 について学ぶ。
4	保育士による子ども家庭支援の意義と基本（2）	保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義 について学ぶ。
5	保育所保育の子育て支援（1）	直接的な支援について学ぶ（実践・ホワイトボードによる伝達）
6	保育所保育の子育て支援（2）	直接的な支援について学ぶ（実践・連絡ニートの書き方）
7	保育所保育の子育て支援（3）	直接的な支援について学ぶ（実践・おたよりの書き方）
8	保育所保育の子育て支援（4）	間接的な子育て支援について学ぶ （環境について）
9	保育所保育の子育て支援（5）	間接的な子育て支援について学ぶ （行事について）
10	保育所保育の子育て支援（6）	直接的な子育て支援について学ぶ（個人面談）
11	保育所保育の子育て支援（7）	直接的な子育て支援について学ぶ（育児相談）
12	多様な支援の展開と関係機関との連携　地域の子育て支援（1）	地域の子育て家庭への支援　子育て広場について
13	多様な支援の展開と関係機関との連携　地域の子育て支援（2）	地域の子育て家庭への支援　子育て拠点について
14	多様な支援の展開と関係機関との連携　要保護児童及びその過程	要保護児童等及びその家庭に対する支援 について学ぶ
15	家庭支援のまとめ	小テストを行い、子ども家庭支援に関する現状と課題を確認する。
16	家庭支援のまとめ	テストの結果をもとに振り返りを行う。

備　考	教育心理学を学び特別支援教育に長く携わったゲストスピーカーとともに講義を進めます。

こども学科	2年

【前期】

科　目	子どもの食と栄養	分　類	専門科目、必修科目
担　当	上原　尚子		
テキスト（出版社）	子どもの食と栄養（北大路書房）		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

子どもの健康と食生活の意義について理解し、栄養に関する基本的な知識を習得する。

2. 授業の目標（検定取得など）

子どもの発育・発達と食生活について、各発達段階における心身の状況とそれに見合った食生活の基本的考え方を学ぶ。保育における食育の意義・目的と基本的考え方を理解し、家庭や各施設における食生活の現状と課題を把握する。

3. 注意点・要望

関連するガイドライン・データ等から特別な配慮を要する子どもへの対応もできるようになってほしい

4. 関連科目

発達、健康関連科目、幼稚園免許関連科目

週	テーマ	内　容
1	子どもの健康と食生活の意義	子どもの心身の健康と食生活　現状と課題
2	栄養に関する基本的知識	栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能
3	栄養に関する基本的知識	食事摂取基準と献立作成・調理の基本
4	子どもの発育・発達と食生活	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活
5	子どもの発育・発達と食生活	幼児期の心身の発達と食生活
6	子どもの発育・発達と食生活	学童期の心身の発達と食生活　　生涯発達と食生活
7	食育の基本と内容	保育における食育の意義・目的と基本的考え方
8	食育の基本と内容	食育の内容と計画及び評価
9	食育の基本と内容	食育のための環境
10	食育の基本と内容	地域の関係機関や職員間の連携
11	食育の基本と内容	食生活指導及び食を通した保護者への支援
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	家庭における食事と栄養　　児童福祉施設における食事と栄養
13	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	疾病及び体調不良の子どもへの対応
14	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	食物アレルギーのある子どもへの対応
15	特別な配慮を要する子どもの食と栄養	障害のある子どもへの対応
16		

備　考	

こども学科	2年

【後期】

科　目	子どもの保健	分　類	専門科目、必修科目
担　当	渡邉　寿代		
テキスト（出版社）	よくわかる子どもの保健		
参考資料	その都度プリント配布		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	50%	0%	0%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

子どもの心身の健康と保健の意義を学び、子どもの身体的発育・発達と健康について理解する。子どもの心身の健康状態とその把握方法において、保育シーンにおけるフローチャートが浮かび、早期発見・適宜対応できる基礎を養う。

2. 授業の目標（検定取得など）

健康診断の方法や保護者との情報共有について具体例をもとにしながら実践力を培う。子どもの疾病予防と適切な対応について学び、子どもを守る保育者精神を育む。

3. 注意点・要望

レポートなどを通して学びを身につけてほしい

4. 関連科目

子どもの保健応用ⅠⅡ

週	テーマ	内　容
1	子どもの心身の健康と保健の意義	生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2	子どもの心身の健康と保健の意義	健康の概念と健康指標
3	子どもの心身の健康と保健の意義	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4	子どもの心身の健康と保健の意義	地域における保健活動と子ども虐待防止
5	子どもの心身の健康と保健の意義	身体発育及び運動機能の発達と保健
6	子どもの心身の健康と保健の意義	生理機能の発達と保健
7	子どもの心身の健康状態とその把握	健康状態の観察
8	子どもの心身の健康状態とその把握	心身の不調等の早期発見
9	子どもの心身の健康状態とその把握	発育・発達の把握と健康診断
10	子どもの心身の健康状態とその把握	保護者との情報共有
11	子どもの疾病の予防及び適切な対応	主な感染症とその対応
12	子どもの疾病の予防及び適切な対応	主な事故や傷害時とその対応
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応	予防接種＆SIDSについて
14	子どもの疾病の予防及び適切な対応	アレルギー疾患（エピペン含む）
15	母子保健対策と保育	母子保健理論と保育所との連携
16	環境及び安全衛生管理①	保育環境整備と保健

備　考	現在保育園で看護師として勤務しており、現場での実情も踏まえた実務的な知識を伝えたい。

こども学科	2年

【前期】

科　目	言語表現	分　類	専門科目、必修科目
担　当	三田　麻矢佳		
テキスト（出版社）	必要に応じて資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

乳幼児期の言語の発達における理解を深め、保育の実践につなげる

2. 授業の目標（検定取得など）

言語における様々な表現手段の特性を知り、実践する力をつける

3. 注意点・要望

目的意識を持ち、主体的に授業に臨むこと

4. 関連科目

幼稚園免許関連科目

週	テーマ	内　容
1	児童文化と表現	保育の現場で活用される様々な児童文化について
2	児童文化と表現	絵本の読み聞かせについて　指導案作成
3	現場での実践	実際に保育現場に入り実践する
4	現場での実践	実際に保育現場に入り実践する
5	絵本の読み聞かせ	実習にむけての実践演習
6	絵本の読み聞かせ	実習にむけての実践演習
7	絵本の読み聞かせ	実習にむけての実践演習
8	子どもの姿から読み取る	現場での子どもの姿をもとに、理解を深めていく
9	保育の実践	学んだことをもとに、幼稚園実習で実践する
10	保育の実践	学んだことをもとに、幼稚園実習で実践する
11	実践の振り返り	実習の振り返りとまとめ
12	児童文化財を用いた保育の実践	絵本から表現へ
13	児童文化財を用いた保育の実践	表現のための絵本選び　プレゼン資料作成
14	児童文化財を用いた保育の実践	表現のための絵本選び　プレゼン資料作成
15	児童文化財を用いた保育の実践	絵本の紹介　プレゼン発表
16		

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	幼児への特別な支援	分　類	専門科目、必修科目
担　当	津田　聡子		
テキスト（出版社）	必要に応じて、資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解し、子どもを理解する上での基本的な考え方、具体的な方法を学ぶことにより、子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する。

2. 授業の目標（検定取得など）

子どもを理解する視点を学び、ひとり一人の発達に即した支援ができる基本的な力を養う。また、インクルーシブ保育の能力も養う

3. 注意点・要望

1年次に学んできた内容から、更に具体的な演習となる。自身の保育体系を探究してほしい

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握	保育における子どもの理解の意義　子どもの理解に基づく養護及び教育の一体的展開
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握	子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり
3	子どもを理解する視点	子どもの生活や遊び　保育の人的環境としての保育者と子どもの発達
4	子どもを理解する視点	現場学習
5	子どもを理解する視点	観察　記録　省察・評価
6	子どもを理解する視点	観察　記録　省察・評価
7	子どもを理解する方法	職員間の対話　保護者との情報の共有
8	子どもを理解する方法	職員間の対話　保護者との情報の共有
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備　考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	乳児保育演習	分　類	専門科目、必修科目
担　当	津田　聡子		
テキスト（出版社）	必要に応じて、資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	1

1. 授業の概要

乳児保育の基本的な考え方を学ぶ。子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際を演習を通じて学び、具体的な保育方法を想像しながら実現できる力を育む。

2. 授業の目標（検定取得など）

3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わり 、配慮の実際等の基本的な考え方について学び、養護及び教育の一体性を踏まえ、生活や 遊びと保育の方法及び環境について、乳児保育における計画の作成能力を身につける。

3. 注意点・要望

1階の保育現場での演習が多くなる。健康管理と問題意識をもってのぞんでほしい

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	乳児保育の基本	子どもと保育士等との関係の重要性 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり
2	乳児保育の基本	子どもの主体性の尊重と自己の育ち 子どもの体験と学びの芽生え
3	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの 実際	観察実習 １日の生活の流れと保育の環境　子どもの生活や遊びを支える環境の構成
4	乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの 実際	観察実習 遊びと援助　子ども同士の関わりとその援助
5	乳児保育における配慮の実際	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
6	乳児保育における配慮の実際	集団での生活における配慮
7	乳児保育における配慮の実際	参加実習　生活面における保育者の配慮を学ぶ
8	乳児保育における配慮の実際	参加実習　遊びにおける保育者の配慮を学ぶ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備　考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【前期】

科　目	保育実習事前事後指導	分　類	専門科目、任選科目
担　当	津田　聡子		
テキスト（出版社）	必要に応じて、資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

保育実習Ⅰのための準備と、実習内容の質の向上のための学習

2. 授業の目標（検定取得など）

実習ノート作成　　学外施設にて見学・観察時実習を行う　　実習評価票

3. 注意点・要望

実習だからこそ学べることへの目標をしっかり持ち望む

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	実習の目的と意義	実習の概要　自己評価にて自身を知ると共に実習生としての意識と責任を持つ
2	事前学習	子どもの人権　プライバシーについて　　書類の種類を学ぶ
3	実習の流れ	保育所実習において決定から実習終了までを知る
4	マナー研修	服装、挨拶、言葉づかい、実習生の生活など、自身を取り巻く様々な心得を学ぶ
5	保育実習内容	保育所とは何かを学ぶ　（保育所入所について、日課、職種等）
6	実習日誌について	目標、環境設定、記録、考察等の書き方　　美しい字　　筆圧、描写、表現の仕方等
7	オリエンテーションについて	オリエンテーションについて知る　　見学・観察・部分・責任実習を知る
8	実習日誌を書く	子ども、保育者の様子を見ながら実習ノートを書くポイントの演習
9	実習日誌を書く	子ども、保育者の様子を見ながら実習ノートを書くポイントの演習
10	学外実習演習	参加実習後実習日誌を書く　　実習、日誌指導をしていただく
11	学外実習演習	参加実習後実習日誌を書く　　実習、日誌指導をしていただく
12	学外実習演習	参加実習後実習日誌を書く　　実習、日誌指導をしていただく
13	実習先について　保育所	自身の実習先を熟知する
14	実習先について　保育所	自身の実習先を熟知する
15	実習先について　施設	自身の実習先を熟知する
16	実習反省　次回実習にむけて	自らの実習を振り返り、課題の改善、次への計画に繋がる

備　考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	保育・教職実践演習Ⅰ	分　類	専門科目、任選科目
担　当	三田　麻矢佳・津田　聡子		
テキスト（出版社）	必要に応じて資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術の習得

2. 授業の目標（検定取得など）

上記に基づき、実践的な知識と技術を学び、実践力を高める。自己の課題を明確化し、保育実践に必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。

3. 注意点・要望

自己の課題を振り返り、主体的に取り組むこと。

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	保育の内容	発達に合わせた援助の仕方
2	保育の内容	発達に合わせた援助の仕方
3	保育の内容	発達に合わせた遊びと関わり方
4	保育の内容	発達に合わせた遊びと関わり方
5	保育の実践に向けて	実習で求められる力について、実践を通して学ぶ　清潔の必要性と習慣について
6	保育の実践に向けて	実習で求められる力について、実践を通して学ぶ　清潔の必要性と習慣について
7	保育の実践に向けて	実習に向けて今までの学習内容を振り返り、自己の課題に取り組む
8	保育の実践に向けて	実習に向けて今までの学習内容を振り返り、自己の課題に取り組む
9	保育の実践	自身の立てた指導計画をもとに保育実習で実践する
10	保育の実践	自身の立てた指導計画をもとに保育実習で実践する
11	実践の振り返り	実践を振り返り自身の課題を見つめ直すとともに、次の実習に繋げる
12	保育の実践	施設の現場で子どもや職員についての学びを深める
13	保育の実践	施設の現場で子どもや職員についての学びを深める
14	保育の評価と計画	実習を振り返り自己の反省と課題を考える。保育における様々な活動を考え、計画に繋げる
15	保育の計画	保育における様々な活動を考え、計画に繋げる
16	保育の計画	保育における様々な活動を考え、計画に繋げる

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【前期】

科　目	保育の心理学	分　類	専門科目、必修科目
担　当	青木　耕大		
テキスト（出版社）	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	50%	0%	20%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

保育に活かすために子どもの発達および心理状態を理解する。

2. 授業の目標（検定取得など）

子どもの発達の側面から心理学の基礎を身につけ保育に活かす。

3. 注意点・要望

保育士資格に必須ですので目的意識をもって参加すること。

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス・子どもの姿	授業の進め方・子どもの発達を確認する
2	発達理論	テーマに沿った内容を具体的に学ぶ
3	アタッチメント	〃
4	遺伝と環境	〃
5	性格	〃
6	自尊感情	〃
7	行動主義	〃
8	条件づけ	〃
9	ギャングエイジ	〃
10	反抗期	〃
11	アイデンティティ	〃
12	モラトリアム	〃
13	虐待	〃
14	PTSD	〃
15	性	〃
16	授業内試験	授業内試験

備　考	

こども学科	2年

【後期】

科　目	乳幼児心理学	分　類	専門科目、必修科目
担　当	青木　耕大		
テキスト（出版社）	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	50%	0%	20%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

乳幼児期の発達や心理状態を理論的に理解する。

2. 授業の目標（検定取得など）

乳幼児期の発達を理解し、保育に活かせるようにする。

3. 注意点・要望

保育士資格に必須ですので目的意識をもって参加すること。

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス・乳幼児とは	授業の進め方・導入
2	認知の発達	テーマに沿った内容を具体的に学ぶ
3	思考の発達	〃
4	記憶の発達	〃
5	対人関係の発達	〃
6	自己の発達	〃
7	感情の発達（乳児期）	〃
8	感情の発達（幼児期）	〃
9	ことばの発達	〃
10	あそびの発達	〃
11	向社会性の発達	〃
12	発達障がい（精神）	〃
13	発達障がい（身体）	〃
14	乳幼児期の保育を取り巻く現状	〃
15	乳幼児期の保育を取り巻く現状	〃
16	授業内試験	授業内試験

備　考	

こども学科	2年

【前期】

科　目	社会的養護Ⅱ	分　類	専門科目、必修科目
担　当	生越　雅志		
テキスト（出版社）	新基本保育シリーズ18　社会的養護Ⅱ		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

社会的養護の意義と歴史的変遷をつかみ、社会的養護の基本を理解し、保育士の視点でどのように子どもを養護すべきか学ぶ

2. 授業の目標（検定取得など）

社会的養護の意味を学び、社会福祉施設の役割と機能を理解し保育者の役割を知る。

3. 注意点・要望

様々な実例を調べ、保育士がどのようにすべきか考えること。

4. 関連科目

福祉関係科目、施設実習、保育所実習

週	テーマ	内　容
1	子どもの権利擁護	子どもの権利擁護の基本
2	社会的養護における子どもの理解	子どもの理解を深めていくためには
3	社会的養護の内容（日常生活支援）	日常生活支援とは
4	社会的養護の内容（心理的支援）	心理的支援とは
5	社会的養護の内容（自立支援）	社会的養護の子どもの退所後の進路の状況
6	施設養護の生活特性（乳児院等）	施設養護の生活特性と対象者
7	施設養護の生活特性（障害児施設等）	児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児施設について
8	家庭養護の生活特性	家庭養護とは
9	アセスメントと個別支援計画	アセスメントと個別計画支援について
10	記録および自己評価	記録の意義と役割について
11	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践	社会的養護における保育の専門性
12	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践	相談援助の定義
13	社会的養護におけるソーシャルワーク	ソーシャルワークにおける支援
14	社会的養護における家庭支援	家庭を支援するとは
15	今後の社会的養護の課題と展望	まとめ
16		

備　考	

こども学科	2年

【後期】

科　目	乳児保育	分　類	専門科目、必修科目
担　当	津田　聡子		
テキスト（出版社）	必要に応じて、資料を配布		
参考資料			

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割を踏まえ、保育所・乳児院等多様な保育の場における現状と課題について理解する。

2. 授業の目標（検定取得など）

3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解し、適切な環境設定や援助の方法、具体的な配慮を実現できうる基本的な力を養う。乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。

3. 注意点・要望

実習だからこそ学べることへの目標をしっかり持ち望む

4. 関連科目

元保育士の先生方への積極的な質問を望む

週	テーマ	内　容
1	乳児保育の意義・目的と役割	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷、役割と機能、養護及び教育
2	乳児保育の基本	現在の乳児保育とは　グループで調べまとめていく
3	乳児の生活と遊びの基本的事項	保育者の基本的な関わり方
4	乳児の生活と遊びの基本的事項	乳児の生活と遊びの考え方を踏まえ、健康と安全について学ぶ
5	乳児の生活の基本	乳児の食事・睡眠・排泄に対する発達と保育者の関わり
6	乳児の生活の基本	乳児の食事・睡眠・排泄に対する発達と保育者の関わり
7	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	生活・遊びを通しての学び　保育者のかかわり方
8	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	生活・遊びを通しての学び　保育者のかかわり方
9	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	生活・遊びを通しての学び　保育者のかかわり方
10	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	生活・遊びを通しての学び　保育者のかかわり方
11	3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育	生活・遊びを通しての学び　保育者のかかわり方
12	乳児保育における連携・協働	職員間の連携・協働
13	乳児保育における子育て支援	保護者を支えていくための子育て支援とは
14	次年度の責任実習に向けて	実習を通して乳児保育を振り返りグループディスカッション
15	次年度の責任実習に向けて	講義で得た知識をもとに、どのような保育が求められているかまとめる
16		

備　考	公立保育士として勤務経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【前期】

科　目	現場学習	分　類	専門科目、必修科目
担　当	中川　菜穂・三田　麻矢佳・津田　聡子		
テキスト（出版社）	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	20%	50%	0%	0%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

実習準備　実習に向けての制作　保育に必要な表現技術

2. 授業の目標（検定取得など）

実習の心構えや準備が整うこと　また実習後の振り返りや実践を通した保育技術を身に付ける事

3. 注意点・要望

保育現場に入るにふさわしいマナー身だしなみをする事

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス　実習準備	実習準備　実習に向けての制作　日誌フィードバック
2	ガイダンス　実習準備	実習準備　実習に向けての制作　日誌フィードバック
3	プレ実習	保育現場に入り保育者の動き、子どもたちの遊びを観察し記録する
4	プレ実習	保育現場に入り保育者の動き、子どもたちの遊びを観察し記録する
5	プレ実習	保育現場に入り保育者の動き、子どもたちの遊びを観察し記録する
6	プレ実習	保育現場に入り保育者の動き、子どもたちの遊びを観察し記録する
7	伝承遊び	実習に向けて伝承遊びについて学び実践する
8	伝承遊び	実習に向けて伝承遊びについて学び実践する
9	教育実習	幼稚園　こども園にて実践的な学びを行う
10	教育実習	幼稚園　こども園にて実践的な学びを行う
11	子どものための音楽表現	子どもの「やってみたい」を引き出す表現ダンス1
12	子どものための音楽表現	子どもの「やってみたい」を引き出す表現ダンス2
13	子どものための音楽表現	子どもの「やってみたい」を引き出す表現ダンス3
14	子どものための音楽表現	子どもの「やってみたい」を引き出す表現ダンス4
15	発表	表現発表通して実践力を身につける
16		

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【前期】

科　目	保育のマナーⅡ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	青木　耕大		
テキスト（出版社）	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	50%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

保育のマナーⅠに引き続き、より実践的なマナーを身につける。

2. 授業の目標（検定取得など）

実習生に求められる社会的マナーを身につける。

3. 注意点・要望

実習に関連する科目であることを理解し、主体的に授業に臨むこと。

4. 関連科目

保育のマナーⅠ

週	テーマ	内　容
1	ガイダンス・実習生としてのマナー	授業の進め方、実習で求められる実践的なマナー
2	電話	正しい電話のマナーでオリエンテーションのアポイントを
3	電話	〃
4	実習生の基本的姿勢	身だしなみ(オリエンテーションの服装)
5	実習生の基本的姿勢	オリエンテーションのマナー
6	実習生の基本的姿勢	話を聞く姿勢・メモの取り方
7	実習生の基本的姿勢	質問の仕方・コミュニケーション
8	お礼状	お礼状の書き方
9	お礼状	〃
10	郵送物	封筒の書き方
11	郵送物	郵便の種類・レターパック
12	生活のマナー	物の借り方・取り扱い方・返し方
13	生活のマナー	食事
14	生活のマナー	片付けと掃除
15	生活のマナー	突発的な出来事の対応
16	生活のマナー	保護者への対応

備　考	

こども学科	2年

【前期】

科　目	Office演習Ⅰ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	上原 尚子、青木 耕大		
テキスト（出版社）	よくわかるマスターMOS　Excel365&2019（FOM出版）		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist　Excel365＆2019の受験を通し、Excelの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標（検定取得など）

Microsoft Office Specialist Excel365＆2019

3. 注意点・要望

必ずテキストを持参すること

4. 関連科目

検定対策Ⅰ

週	テーマ	内　容
1	ワークシートやブックの作成と管理	ワークシートやブックを作成する・シート内の移動や書式設定 シートのオプションと表示のカスタマイズ・シートの印刷
2	セルやセル範囲の作成	セルやセル範囲にデータを挿入する・セルの書式設定 セルの並べ替えとグループ化
3	テーブルの作成	テーブルを作成、変更する レコードの抽出と並べ替え
4	数式や関数の応用	数式を使用する
5		関数を使用する SUM関数　AVERAGE関数　MIN関数　MAX関数　COUNT関数　COUNTBLANK関数
6		関数で条件付き論理を使用する SUMIF関数　AVERAGEIF関数　COUNTIF関数
7		文字列操作関数を使用する UPPER関数　LOWER関数　LEN関数　LEFT関数　RIGHT関数　MID関数
8		文字列操作関数を使用する CONCAT関数　TEXTJOIN関数
9	グラフやオブジェクトの作成	グラフを作成する
10		オブジェクトを作成する
11	模擬問題　CD演習	模擬問題CD演習
12		
13		
14		
15		
16		

備　考	

こども学科	2年

【後期】

科　目	Office演習Ⅱ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	上原 尚子、青木 耕大		
テキスト（出版社）	よくわかるマスターMOS　Word365&2019（FOM出版）		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist Word365＆2019の受験を通し、Wordの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標（検定取得など）

Microsoft Office Specialist Word365＆2019

3. 注意点・要望

必ずテキストを持参すること

4. 関連科目

検定対策Ⅱ

週	テーマ	内　容
1	文書の作成と管理	文書を作成する・文書内を移動する・文書を書式設定する
2		文書のオプションと表示をカスタマイズする 印刷または保存するために文書を設定する
3	文字、段落、セクションの書式設定	文字列や段落を挿入する 文字列や段落を書式設定する
4		文字列や段落を並べ替える、グループ化する
5	表やリストの作成	表を作成する 表を変更する
6		リストを作成する、変更する
7	参考資料の適用	文末脚注、脚注、引用文献を作成する
8		図表番号を作成する
9	オブジェクトの挿入と書式設定	文書パーツを挿入する、書式設定する 画像を挿入する、書式設定する
10		図形やSmartArtを挿入する、書式設定する
11	模擬問題　CD演習	模擬問題CD演習
12	↓	↓
13		
14		
15		
16		

備　考	

こども学科	2年

【前期】

科　目	検定対策Ⅰ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	上原 尚子、青木 耕大		
テキスト（出版社）	よくわかるマスターMOS　Excel365&2019（FOM出版）		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist　Exce365＆l2019の受験を通し、Excelの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標（検定取得など）

Microsoft Office Specialist Exce365＆l2019の検定の取得

3. 注意点・要望

内容はOffice演習Ⅰに準ずる

4. 関連科目

Office演習Ⅰ

週	テーマ	内　容
1	検定対策	検定対策（Office演習Ⅰに準ずる）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備　考	

こども学科	2年

【後期】

科　目	検定対策Ⅱ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	上原 尚子、青木 耕大		
テキスト（出版社）	よくわかるマスターMOS　Word365&2019（FOM出版）		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	0%	20%	0%	50%	30%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

Microsoft Office Specialist Word365＆2019の受験を通し、Wordの基本的な操作方法を習得する

2. 授業の目標（検定取得など）

Microsoft Office Specialist Word365＆2019

3. 注意点・要望

必ずテキストを持参すること

4. 関連科目

Office演習Ⅱ

週	テーマ	内　容
1	検定対策	検定対策（Office演習Ⅱに準ずる）
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		

備　考	

こども学科	2年

【前期】

科　目	社会人基礎力Ⅲ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	中川　菜穂		
テキスト（出版社）	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ

2. 授業の目標（検定取得など）

保育現場で活かせるスキルの習得を目指し、記録に残す

3. 注意点・要望

体験したものは、体験シートにまとめ提出のこと。評価の対象となります。天候などにより一部内容が変わる場合があります

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	新年度を迎えて	係決め
2	新入生歓迎会企画	企画内容を考える
3	新入生歓迎会	1年生が安心して学校生活をスタートできるように歓迎会を行う
4	施設実習報告会/体育祭企画	3年生から施設実習の報告を聞き施設実習のイメージを持つ/体育祭企画
5	ゴミ拾い	船橋市内の清掃活動をおこなう
6	音楽発表衣装つくり	音楽発表に向けての衣装つくりを学ぶ
7	音楽発表衣装つくり	音楽発表に向けての衣装つくりを学ぶ
8	音楽発表衣装つくり	音楽発表に向けての衣装つくりを学ぶ
9	若幸祭企画	若幸祭企画についての話し合い
10	実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
11	実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
12	体育祭企画	体育祭の企画について話し合い
13	夏見台幼稚園音楽発表練習	音楽発表に向けて準備を進める
14	夏見台幼稚園音楽発表練習	音楽発表に向けて準備を進める
15	夏見台幼稚園音楽発表練習	音楽発表に向けて準備を進める

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。

こども学科	2年

【後期】

科　目	社会人基礎力Ⅳ	分　類	教養科目、必修科目
担　当	中川　菜穂		
テキスト（出版社）	なし		
参考資料	なし		

評価基準	期末試験	レポート	授業課題	小テスト	目標資格	平常点	合計
	0%	20%	30%	0%	0%	50%	100%

単位数	2

1. 授業の概要

机上では学べないものを、自らの体験を通して学ぶ

2. 授業の目標（検定取得など）

保育現場で活かせるスキルの習得を目指し、記録に残す

3. 注意点・要望

体験したものは、体験シートにまとめ提出のこと。評価の対象となります。天候などにより一部内容が変わる場合があります

4. 関連科目

週	テーマ	内　容
1	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
2	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
3	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
4	研修合宿事前学習	研修合宿の事前準備　事前学習
5	研修合宿事前学習	研修合宿の事前準備　事前学習
6	若幸祭準備	若幸祭の企画、準備
7	若幸祭振り返り	全体で話し合い反省をまとめる
8	保育実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
9	保育実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
10	保育実習振り返り	保育実習事後レポート　お礼状
11	3年生を送る会の企画	内容を考える　　担当決め
12	3年生を送る会の企画	内容を考える　　担当決め
13	施設実習準備	指導案作成・ピアノ練習・製作物
14	施設実習振り返り	施設実習事後レポート　お礼状
15	3年生を送る会	製作物
16	3年生を送る会	製作物

備　考	幼稚園・保育園にて保育経験のある教員が、その経験を活かして講義を行う。